週刊新聞 直言

SOCIALISM—ソーシアリズム—社會主義

本紙は日本社會主義の中央機關也!!!

●勞働運動の復活期

如何に天下の志士論客が「平和を言ふべからず」と絶叫したればとて、時々刻々平和の接近しつゝあることは明々白々の事實なり、吾人は戰後の事業の爲めに片時も準備を怠るべからざる也。

吾人は戰爭後に於ける製造工業の膨張を疑ふこと能はざる也、何となれば「製造工業の膨張」は戰爭の原因なりしと共に其の目的なりければ也、曰く國權の擴張、曰く國威の發揚、曰く友國の救濟、曰く東洋の平和、是れ皆な外觀の空名に過ぎずして、眞個戰爭の實質問題は即ち經濟的利殖の競爭に外ならざれば也、去れば軍隊政治は其の内容也、故に戰後に於ける所謂製造工業の發達てふ現象の裏面には、國民をして再び勞働問題の切迫を覺醒せしむることを免れざる也、吾人は玆に「再び」と言ふ、吾人は實に日清戰役の後に於て曾て一たび之を經驗したれば也。

乞ふ過去の實驗をして暫く將來の運命を推斷することを得せしめよ。

日本國民が社會問題の興味を感覺したること決して久しからずとなさず、然れ共其の愈々發現して社會上及び政治上の活問題となりたるは、實に日清戰爭以後に在りて、戰爭は實に其の近接の動機なりき、多面なる社會問題の中先づ來るべきものは則ち勞働問題ならざるべからず、農商務省が始めて「職工の取締及保護に關する件」の一題を提して之を農商工高等會議の議に付せしは、明治廿九年の末なりき、而して多年米國に勞働せる數名の熱心家が、日本の勞働者をして自家の境遇と責任とを自覺せしむべく、始めて勞働者團結の切要を唱道したりしも、亦た實に同一時代なりし也、看よ、日清戰爭の後を受けたる所謂工業發達の時代に於て、勞働者の如何に覺醒奮起したりしかを、彼等は「擧國一致」の下に日清戰爭を擁護せり、戰爭は終了せり、山師資本家は暴富を得たり、大臣大將は勳章を得たり、國民は名譽を得たりしや、然れ共彼等勞働者は果して何物を得たりしや、彼等も亦た一大紀念を得たり、何となれば彼等は生活の不安てふ永遠の厄介を買ひ得たれば也、爰に於てか彼等は空名虛榮の事に益なきを覺りて團結擁護の欠くべからざるを理解せり、同業組合の續々組織せられしも是れが爲めなりき、同盟罷工の滔滔流行したるも是れが爲めなりき、吾人は同盟罷工の不祥を承認す、何となれば是れ勞働者の痛苦と、資本家の罪惡とを包藏する妖怪の黑影なれば也、然れ共愚昧にして同情なき世の紳士淑女をして「微細なる賤民」に潛在する「神聖なる活力」に驚動せしむるものは、此の不祥なる同盟罷工に如くなき也

者よ、明治三十一年の二月、春淺くして風尚は肌に寒きの時、日本鐵道會社の機關方及び火夫數百名に依て斷行されたる壯嚴雄大の同盟罷工を、當時彼等が飛ばしたる無飾の檄文は實に壓制輕侮の底より自覺せる一般勞働者の聲たりし也、曰く

會社は向後に見るなく益々我等を冷遇す、否、愚弄す、諸君近來の出來事を見られよ、保線課一同は甲乙の別なく一人不殘增給せり、又た運輸の一方を見られよ、日給者にありては或は十錢二十錢、月給者及び年給者に在ては二等若くは以上の上給有之、是實に目醒しき盛事也、——而して我等邊には微風だになし、——諸君必ず忘れざるべし、彼の二十七八年軍隊輸送なり、軍隊輸送の責任に當るものは准軍人と見做し、機關方、火夫、驛長、助役等は除役を免ぜられたり、見よ責任に驛長、機關方、助役火夫等なり、然るに其戰後賞與の達を見よ、關係驛長助役等には或は二十圓或は五十圓の賞金勳章賞狀を與へしに非ずや、而して眞に辛苦慘憺の局に當りし機關方、火夫は何物を與へしや、

機關方及び火夫と言へば社會の尤も輕蔑する勞働者なり、然れ共彼等の職掌や最も尊貴にして、其責任や最も重大なり、若し彼等にして突然其手を離さんか、萬事休す、滊車は一分だも一厘だも進行すること能はざる也、貪慾の會社は仰天狼狽せり、無情の社會も喫驚覺醒せり、會社も社會も尤も輕蔑無視したる微賤なる機關方と火夫とは尤も正々堂々の態度を以て勝利の結局を告ぐることを得たり、而して彼等は更に矯正會なる極めて讃美すべき勞働團體を組織して一般勞働者に其の標範を示せし也。

勞働者自身の奮起此の如きの時、吾人は政府の一角に於ても、此の一般の形勢に乘じて勞働者に對する同情の極めて盛なるものありしを見る、例へば農商務大臣として工場法案に盡力せる金子堅太郎君が卅一年の冬勞働組合期成會の公會席上に於る演說の一節を看よ、彼曰く『——文明的工業は皆な職工の力なり、日本鐵道會社に於ける彼の改革は何を意味するや、是れ覺醒勞働者(機關方、火夫)にして同盟罷工せば滊車は一寸も動かさるぞと言ひたればこそ、始めて改革を成就したりしなれ——』、彼は更に勞働者一致結合の必要を極說し、且つ勞働者の手に政權を掌握するに非ずんば、決して勞働者の位地を向上發展すること能はざるを明破せり、讀者諸君、金子君の演說を回顧して、今日と對照せよ、桂內閣の警察は治安妨害と稱して直に中止解散を嚴命すべき也

然れ共諸君誤解する勿れ、農商務省の官房に講究されたる勞働者擁護論は決して明治政府の意向にては無かりしぞかし、看よ、明治政府の正統的意思は常に內務省の手を經て實現せられ、勞働者壓迫政策は終始一貫して、年と共に其の甚しきを加へ來りぬ、驚く勿れ勞働者觀櫻會の禁止は、是れ明治三十一年以來の確定憲法なるに非ずや、而して勞働者の團結同盟罷工が如何に資本家と政府とを狼狽せしめたるかは、治安警察法の發表に依て知るべき也、「勞働者を輕蔑」するは武斷政治本來の感情也、「勞働者を恐怖」するは、暴慾なる資本家共通の心意なり、去れば看よ、金子君が農商務大臣の資格に於て勞働者の團結を勸說し、同盟罷工の功德を讃美しつゝあるの時、彼の「輕蔑」と「恐怖」とは握手合體して、遂に三十三年治安警察法の制定となり、「勞働者の團結」に向て殆ど死刑の宣告を與へたり、若し今日講壇より「勞働者諸君團結せよ」の一語を發するものあらんか、警官は劒を案して直に中止を命令す、而して彼の日清戰役が與へたる日本勞働運動史上の一紀念たる、機關方火夫の「矯正會」も、會社と政權との結合力の爲めに遂に解散の運命を免るゝこと能はざりし也、然れ共勞働者の團結は到底得て防遏すべからざる也、社會の趨勢は遂に彼等をして自家生存の唯一方法として必ず此に發明せしめずんば休まざるべければ也、吾人は既に日清戰爭が勞働者に向て團結の必要を自覺せしめたるの先例を學び得たり、敢て問ふ、日露戰爭は果して何等顯著の敎訓を我勞働者に與へんと欲する乎看よ、拒むべからざるの事實は是れ也、戰死の犧牲は是れ皆な貧民、勞働者と其の子弟也、軍費の最後の負擔者は是れ皆な貧民と勞働者と也、——然れ共戰勝の鴻益に就て彼等は直接に何物の分配を享受せんと欲する乎、吾人は之を各國の歷史と近く之を日清戰役の實驗とに徵して「生活難」の外殆ど何物も是れあらざるべきを悲痛せずんばあらざる也、戰後の第一現象は勿論資本家政治の現著なる發展ならざるべからず、而して是れ實に社會的危機の伏在する所也、人生最大の活力は『死』なり、而して資本家政治の發展は多數勞働者を驅つて死の谷に陷擠するものに非ずや、吾人は之を思ふて憂忡禁ずる能はざる也。

彼の何時までも軍歌を連唱する大人君子の諸君よ、太平樂も大抵に切り上ぐべきに非ずや。

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALIST.
Issued every Sunday.
Communications addressed to The Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, April 9th, 1905. No. 10.

MOVEMENTS OF OUR COMRADES.

On the 2nd inst., many hundreds of our comrades assembled at the Ueno Park for "reviewing the cherry blossoms" as they call it. Every one of them carried a red flag in his hand and cried out all at once "Shakwai-shugi Banzai!" (Long live socialism!). Police men suddenly came up from every quater and ordered the demonstrators to disperse, arresting in the meantime about thirty of them, including two women, who were playing the most active part in this demonstration. So it ended just as it ended each year.

On the night of the 3rd inst, the socialist lecturing meeting was held in the Y. M. C. A. Hall. In spite of heavy rain, there assembled about four hundred audience. The speakers were Comrades Matsuzaki, Yamada, Kinoshita and Saji. Comrade Kinoshita is one of the most eloquent orators in Japan. He spoke on that night about the history of the labour movement in this country, and said in conclusion that it was nothing other than our socialist movement that would spring up most forcibly after the Russo-Japanese War. Comrade Saji is one of the city councillors of Tokyo, being the only representative of Japanese socialists in any public assembly. He spoke on the practical side of the municipal socialism, such as the city water work, the Electric Railways etc.

After the lectures were over, comrade Ishikawa made some reports about the "cherry reviewing" meeting of the previous day and complained of the barbarous conduct of the police, when the police sergeant present there suddenly stood up and ordered to dissolve the meeting. But the excited audience would not listen to such an order. They cried out again and again "Shakwai-Banzai!" (Long live the socialist party!) violently clapping their hands all the time. After the great confusion which lasted about one hour, the audience were gradually dispersed singing the "song of socialism."

Three propagandist peddling parties are now going on very successfully. Comrade Oda is proceeding to Kyushu (the south western district) from his native province Yamaguchiken where he has been taking a rest for a short time after he had finished his first peddling trip. Comrade Arahata just departed from Tokyo for the north eastern district. Comrades Fukawo and Harako are also going to the northern districts. They are all hauling red small hand carts in which they carry the copies of "Chokugen" and the socialistic books and pamphlets for sale. We hope most sincerely their success in this noble work though they might happen to meet many unforseen hardships in their journey.

(電話本局三二六二番 平民社)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○新聞紙上の大事件

▲東京市實業團體祝捷會　去五日開會日比谷、上野の兩公園に於て大騷ぎを爲せり、戰勝の上景氣の爲めに儲ける者は謂はゆる實業家なり、彼等の騷ぐは當然の事なり

▲愛國婦人會總會　去二日九段偕行社に開會、皇后陛下の行啓あり、此『國家的慈善事業』は『軍人遺族及び廢兵を救護するを以て目的と』し、會員現に三十有六萬あり、盛なりと云ふべし、然れども吾人は猶軍人遺族の寡婦が賣淫を爲して纔かに口を糊する者あるを聞けり

▲樺太經營同志會　政治家、新聞記者の類を以て組織せられたり、樺太の漁利は確に莫大なるべし、而も之を經營して徒らに某派の資本家を肥やし、某黨の浮浪を養ふに過ぎずんば、多數平民は此領土擴張より果して何の恩澤を受くべき乎

▲韓國大使入京　義陽君李載覺氏、去四日新橋に着す、フロックコートにシルクハットの好貴紳也、吾人は此大國の使節に對して一掬の涙を禁ずると能はず

○各種勞働者賃銀の高低

我國勞働者の賃銀は地方によりて甚しき差違あり、勿論我國に限らず、賃銀の差違は土地の狀態と生活の便否によつて何れの國にもこれあるべきも、特に交通機關の未備と工業の程度幼稚にして未だ家內工業の域を全く脫せざる我邦に於て一層著しきを見る、試みに最近の調査によりて之を比較するに實に左の如し

職名	最高 地方	（賃銀）	最低 地方	（賃銀）
大工	神戸	（八三）	秋田	（四〇）
左官	東京	（九〇）	松江	（三五）
石工	東京	（一、〇〇）	松江	（三五）
家根職	東京	（九〇）	金澤	（四五）
木挽	横濱	（六六）	松江	（三〇）
疊職	東京	（八八）	札幌	（三一）
煉瓦職	東京	（八二）	丸龜	（四六）
鍛冶職	東京	（九〇）	松江	（三五）
船大工	東京	（八三）	松江	（三五）
洋服工	東京	（九二）	名古屋	（三五）
和服工	東京	（六一）	仙臺	（三〇）
靴工	神戸	（五五）	仙臺	（四五）
建具職	東京	（八五）	秋田	（二五）
指物職	札幌	（八三）	宇都宮	（三五）
活版工	東京	（六〇）	廣島	（三三）
下駄職	大阪	（六二）	長野	（三四）
染物職	東京	（五〇）	宇都宮	（三二）
菓子職	東京	（五〇）	同	（三一）

其差の大なるは二倍に達し、稀には三倍に達せんとするものさへあり、而して其然る所以は、賃銀の低廉なる地方の職工は重に土着の者多く、自家には農或は商の世襲定業ありて其子弟（稀には主人）が副業的に工業に從事するものなれば、賃銀の昂落は生活の上に甚しき痛痒を感ぜざるが爲め也、然かも輓近一般生計の窘迫と交通機關の稍備はれるとは、絕えず低給地方の職工を高給地方に流入し來り、職工の不足は漸く低給地方の賃銀を上騰せしめ、高給地方にては職工の餘剩を感ずるに隨つて動もすれば賃銀の殺減を見んとす、此點に於て東京の勞働者は最も不利の影響を受くる地に立てりと云ふ可し（香摘生）（毎日新聞より轉載）

○無料宿泊所の近狀

高島健作氏の經營に成れる無料宿泊所の消息を得たれば左に掲ぐ

△卅四年四月創立以來、昨年十二月迄の成績を聚ぐれば、養育院に入院せしめたるもの七十八人、業務の周旋を爲したるもの百五十四人、共濟慈善會及び東京感化院へ入院せしめたるもの六人、警察の保護を求めたるもの六人、宿泊せしめたるもの一萬二千七百三十三人
△右の中、女は男百人に對して一人の割合、外國人は米國人一人、獨逸人一人、朝鮮人一人
△一日の宿泊人は、戰爭前には平均十人位であつたが、開戰後には十六人以上廿人となつた、昨今では又又十人位となつた
△こんな風で何處の何者だか譯の分らないものが來るのだが、今日迄恩を仇で返へしたものは一人ほか無い、其他は一夜の恩を遙々端書に寄せて禮手紙を送り越すものもあれば頓と行衞不明のものもある
△今年になつてから一月より三月二十日まで宿泊人の總數は八百五十人で、この內現に角同所の世話で一定の職業に從事して居るものが三人ある
△斯くて追々事業が擴大するに依り、近々今の淺草松葉町より本所若宮町卅八番地（元共濟慈善會）に移轉する由

吾人は必ずしも慈善事業に反對する者に非ず、然れども國家は何故に其責に任せざるか、政府は何故に之を一私人の手に委ねて顧みざるか、知るべし、慈善事業は一私人の手に於て小範圍內に之を行ふを得れども、國家事業として社會全體に之を行ふを得ざるものなる事を、若し眞に社會全體に之を行はんと欲すれば今の資本家階級を全滅せざる可らず、然らば即ち是れ既に慈善事業に非ずして社會主義の實行也

○日露戰爭と國內工場

昨年七月より九月に至る三個月に於ける時局の工場に及ぼす影響に付き其筋の調査したる所に依れば

△一道三府四十三縣（廣島を欠く）の工場總數は八千八百三十六箇所にして、前年同期に比し、北海道、東京、神奈川、兵庫、千葉、栃木、愛知、靜岡、山梨、滋賀、岐阜、福島、岩手、秋田、福井、石川、富山、山口、愛媛、香川、高知、福岡、熊本、宮崎に於て三百二十七ヶ所を增し、京都、大阪、新潟、茨城、奈良、三重、長野、宮城、青森、島取、岡山、和歌山、德島、大分、佐賀、鹿兒島に於て三百四十一ヶ所を減じ、差引十四ヶ所を減ぜり
△此等工場に於て使用せる職工は合計五十五萬八千四十一人、內男工廿二萬五千四十八人にして、前年同期に比し二十府縣に於て七千七百五十一人を增し又減少せるは二十三府縣にして其數六千三百九十六人、差引千三百五十五人を增加せり
△女工は三十三萬二千九百九十三人にして、前年同期に比し二十七縣に於て二萬二千四百四十四人を增し、十七縣に於て九千九百九十一人を減じ、差引一萬二千四百五十三人を增加せり

○減囚七千餘人

本年一月末日の調査に依れば、日本の囚人は昨年の同日に比し約七千人を減ぜり、是れ司法省が監獄費を節せんが爲に用ゐたる囚人減少政策の結果也と、隨分奇妙なる政策もあるもの也

○伊豆の安樂鄉

伊豆半島白濱村は下田港を距る一里半、海岸に接せる一帶の地域にして、白砂青松風光頗る好く、戶數三百、人口千七百の小村なるも、沿海石花菜に繁茂し、全村之が採收に從事し、其收穫は一ヶ年四五萬圓に達し、其收益中より採取料及び諸雜費を控除し、純益の內二割を村の基本財產として積立て、二割を村費に編入れ、殘餘六割を以て、村內に本籍を有し五ヶ年以上住居するものに對し、平等に分配する慣例なれば、村民中富の平均能く調ひて、富豪なく又赤貧者なしといふ

◉傳道行商消息

▲九州傳道行商　小田賴造氏は去一日其鄕里なる周防國佐波郡島地村を出發して馬關に赴き、翌二日馬關より門司に渡り、三日には探偵數名を從へて小倉市に入りたる筈なり
▲東北傳道行商　荒畑勝三氏は去五日午後平民社を出發して先づ千葉に向ひたり
▲甲信傳道行商　深尾韶、原子基の二氏は近日平民社を出發して、先づ甲州、信州地方へ向ふ筈
▲三個の赤車が日本國の三大要部を通過して、社會主義の種を播きゆくを思へば、吾人は實に愉快の感に堪へざる也

◉東西南北より

▲外務侍郎那桐が外出する樣を見しに、其從者の數の多きは吾人をして實に一驚を喫せしめたり、即ち騎馬の者前に六人、後ろに十二人、籠かき八人、豫備の者八人、而して此八人を乘せたる馬車、而も二頭立一つ、并を御するもの一人、依つて人間一人がチョット外出するに、從ふもの實に卅有五人、馬匹廿頭の勘定となる、貴族主義の不經濟なるは言語に絕せりと云ふべし

▲取急ぎ御報申上候、小生は〇〇縣廳の、而も〇〇部てふ役所の小吏にて、平民新聞創刊以來の讀者に候、來る四月三日の勞働者觀櫻會に就き、當廳へも警視廳よりの照會有之候、曰く「警視廳に於て禁止するの見込なれば御縣〇〇工場等より出向くものあるやも測られざれば、工場主に此旨示諭方取斗はれ度候」と、固より禁止は御覺悟に可有之候得共御都合も如何かと存取急ぎ御報申上候、御健鬪偏に願上候（一日、〇〇〇〇）

▲今や我が村は滅亡の度を一層早めんとしつゝあり、如何となれば十九才以上卅四才以下の男子にして勢の壯なる最も生產力に富む者は日に月に此地を去りつゝあるなり、殊に村の改革者を以て自任する人々が最近時に於て七八名も他行せるは何等悲しむべき現象ぞや、且つや其他行の原因は何れにあるかを見よ、其の三分の二は實にパンを得ん爲めにして、三分の一は所謂紳士閥の犧牲となれるものなり、斯の如くにして我村の土地は地主の兼併する所となりて小作人は愈々困斃するなり、されば吾人は社會主義の光明を望んで心ろ渴せんばかりなり（信州、山邊淸太郎）

▲平民子の廢刊には膽をつぶし候ひしが、直言てふ好箇の機關に接し、ホツト一息つき申候、其後生の友人間に熱心なる主義者三人顯現いたし候、此同志は大山前に崩るゝも志を變ぜず底の人物に御座候、昨今當地の警察各署に於て目玉を丸くして直言の愛讀者を探求致居り、小生の處へも屢々取調に參り候得共、彼等如き徒輩にいかで共通の秘密をもらすべきぞ……近來頻る御繁多の由、さもありぬべし、生等微なりと雖ども いづれの地よりか旗鼓堂々として援軍に赴くべく候（埼玉縣本庄町、飯簔彦藏）

▲余は今軍律の支配の下にありて多く語ることを得ず唯目擊せし事實の一二を報ぜん△某日、淸人の家屋は各火を以て燃かれ、煙の中を逃んで舍營の地に就けば、家は荒らされて戶も無く、障子も無く、土人は行くに所なく、破屋の一隅に病みたる老人の苦痛の聲を發するを聞くも省みられず、鍬も鎌も農具は悉く兵士が煖を取る爲めに燃料とせられ、穀類亦徵發せられて土人は饑に迫り、少しのさゝやきなせば直ちに所謂義軍の兵士に責められ、淚を呑んで唯憤怨の情を抑ふるのみ、其憐れさ言ふばかり無し（戰地一兵卒）

▲我村に一富豪があつて、金貸に頗る妙を得て居る、昨年不景氣の爲に小養蠶家は皆養蠶資本を得るに窮した、ソコで其富豪は多くの人に此資本を貸してやつた、幸に其結果は大當りで人民皆大に其富豪の德を讚賞した、處が富豪は此期を利用して貸したる資本のみならず、舊債までの返却を迫つた、而して每戶の養蠶收入の大部分は此一富豪の利益となつて仕舞ふた、嗚呼（上毛、泓山）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○失業者の示威運動

英國の失業者問題が愈々重大となり、示威運動、ソップ施行、救助金募集等の諸都市に行はれ、社會黨の之が解決の爲に臨時議會召集の必要を叫びつゝありしは屢ゝ本紙の報じたる處なり、其後通常議會開け、皇帝の開院式の詔勅中に此問題の解決に言及するものを見たりとは云へ政府議會共に之に對して其だ熱心ならざるより、倫敦の失業者は堪へ兼ねて二月廿五日を期して、トラファルガル十字街頭に一大示威運動を行ひたり、トラファルガル十字街はトラファルガル戰捷紀念の爲めにするネルソン紀念碑のある處にて、倫敦に於ける示威運動は通例此處若くはハイド公園に行はるゝが、今此武勳赫々たる海將紀念碑の下に餓へたる數萬の失業者の、一大示威運動を見る、頗る妙なる對照にあらずや、

△會衆は正午先づテームス河の堤防に集りて、ペアース氏の準備し置きたる五千のサンドヰッチを忽ち皆けに食ひ盡し、而して徐々と目的地に向つて前進したるが、其到着に先ちてネルソン紀念碑の周圍に集りし者の數は非常に多かりければ、流石の廣場も立錐の餘地だも無き程にて、近時稀に見るの盛況なりき、

△今や會者たる社會民主同盟のジャック、ウィリアム氏は先づ立つて開會の辭を述べ、政府の冷淡なるを詰め、下院の怯懦なるを罵り、下院が失業者に送りたる委員の主張を笑ひたりしを難じ、保守黨は元より自由黨も、勞働黨の議員も、共に皆之に賴むに足らざる腐敗者流なりと喝破し、此上は失業者は唯だ自己の勢力を以て政府の救濟を強取するの外なしと結論したり、

△ウィリアム氏の演說了るやハーディー、ケルチ氏は左の決議案を出したるが滿場一致拍手の裡に可決せられたり、

失業者の本大會は既に二月十一日の大會に於て、選舉し、下院に送りたる委員の報告を聞き、下院が先例を濫用して、失業者が人民の代表者の前に其の苦痛を陳訴するを妨害したる事に向つて熱心に抗議す、

故に本大會は千八百五十年、國會に於て濠太利亞植民地の利害に關係する法案の提出せられたる際、該植民地が委員を下院に派遣したるの例を追ひ、茲に再び委員を選びて、其れをして國王の詔勅中に云へる法案の提出せらるゝ際、下院に出席し辯明せしめんことを期す

△其れより決議は動議の演說ありたるが、或者は口を極めて議會の爲す無きを罵り、或者は失業者の多きは決して爲すべき事業無きが爲にあらず、事業の起らざるは唯だ經營者に充分の利益を與ふに足らざるが爲也、政府及び自治體は宜しく是等の事業を經營すべき也と說き、或者は我等は如何に勞働の富なる食物の增殖裡に於りて餓死せざるべからざるの理なし、唯だ常に現社會組織を改むべしと云ひ、或者は下院にして我等の代表者を引見せずんば、唯だクロンウエルの例に倣ひて、我等の數と力とに依りて議員を院外に追ふあるのみと迄へ激語し、或者は議員選舉の忽にすべからざるを、資本家制度の廢滅に歸せざる限りは失業者問題は決して眞に解決せらるゝの期なきを說き、而して應急の策としては兎も角も議會に迫りて何分の處置を執らしめざるべからずと論じたり

△斯くて此の大示威運動は無事に終りを告げたるが各地より來れる同情ある電報は演說の間毎に讀み上げられ會衆は拍手を以て之を迎へたりき

嗟英國議會は、如何に此問題を解決するならん歟、如何に紳士閥的政府、議會なりとは云へ、事態が斯く重大となりたる上に、總選舉も眼前に控へ居る事なれば、滿更兒戲に類する處置も爲さざるべき歟

○南阿に於ける勞働者

南阿戰爭によりてトランスワールが英國の所屬となりし以來、白人種の勞働者が却て苦境に陷らしめられし事は、本紙第七號に報導せし所なり、今左「ニュー、エーヂ」紙上の所報を見るに、白人減少の有樣左の如し

△同地鑛山內にある有色人種數千人に對する白人種の割合數は年々に減少しつゝあり、即ち千九百二年七月に於ては有色人千に對して白人二百五十なりしに、千九百三年七月には百七十人となり、千九百四年には實に百四十三人てふ少數となれり

然るに吾人は去る五日の大阪朝日紙上に於て又た左の如き報導に接せり

△支那人の同盟罷工　南阿弗利加の北ランド、フォンタイン鑛山に働ける支那坑夫二千人は、賃銀に不滿を懷き同盟罷工を爲せり、秩序回復の爲め警官を召集せしが、支那人の死傷多し、但し事態は重大にあらず(三日倫敦發)

白人既に其勞苦に堪えずして多數は皆此地を去り、而して支那人獨とり此の地の鑛業を支持するの姿となれる今日、彼等の不滿、彼等の要求は素と正當なるべきなり、然るに電報には「支那人の死傷多し」といふに係はらず「事態は重大にあらず」となす、蓋し右の報導者は紳士閥に屬し、勞働者の生命の如きは其一顧をだも價せずとなす者ならん、咄

○團結せる婦人の聲

去る二月十二日英國マンチエスター及サルフォード婦人勞働會議所の保護の下に最も有効なる會合はマンチエスター市自由貿易會館に於て開かれたり

△其會合の目的は即ち婦人の自由の擴張を政府に要求するにあり、サラー、ヂツケンソン夫人其議長席に就き、フヰリツプ、スノーデン氏一の動議を起し、ゴーア、ブース嬢贊助を揮ふて之に贊し、茲に其の議案は可決せられたり、曰く「本會は政府が速かに婦人勞働者解放の法規を制定せんことを要請す」と

△かくて此團結せる婦人等が婦人解放問題の火の手を高めたることは諸他の婦人團隊の及ぶ所に非ず、而して婦人の權利擴張に關する實際的運動も着々其步を進めつゝあり

團結は力なり、吾人は日本の婦人諸君に對し、強大なる團結を組織して大に婦人解放の聲を揚げんことを切望する者也

○社會主義者の祝捷行列

吾人は白耳義國ブルッセル市に於ける吾黨同志の大勝利と其祝捷行列に就き一報を得たり

△社會主義者青年隊の一同志ケーチン氏は軍隊に教唆するに「軍人は仲間たる勞働者に對する野砲の命令には服從すべからず」との事を以てせる爲め告發せられたり、彼に社會民主黨が非軍制主義の傳道を爲すを以て憂慮なりとなし、而して軍隊の罪惡を譏倒して大に之を攻擊せしなり

△然るに裁判所は遂に彼を放免せざるを得ざりき、而して青年隊は非常なる歡喜を以て其祝捷行列をなせり

吾人は此報を得て實に羨望に堪えざるものあり、吾人は幾年の後に於て能く斯の如く公平なる裁判を見ることを得べきや

○匈牙利國最初の代議士

匈牙利國社會黨が、國會に其代表者を選出し得たるは今回を以て嚆矢となす

△是れ實に同國の社會黨に取りては大なる勝利ならざるべからず、蓋し專制的專制政治の下にある同國の社會黨の行路は到底他國に於て見る能はざるものあればなり、且つや其選舉權は最も制限せられ、加ふるに集會の權利は殆んど認められず、其困難や眞に察すべきなり

△其選出せる代表者は唯一人にして未だ直ちに其效果を期待し得べからずと雖ども、彼は常に自己が代表せる人民に對して煽動の中心となりつゝあり

吾人は所謂立憲政治の下にありながら、未だ一人の代議士を出すと能はず、匈牙利の同志に對して眞に慚愧に堪えず

○佛國の內閣瓦解

佛國政府は同盟罷工の少しく重大となるや、常に軍隊を送りて之を鎭壓する者なるが、其之が爲に費す所は左の如くなり

五十二萬八千三十八法(千九百年)
八十六萬九千七十二法(千九百一年)
百五十四萬二千六百三十五法(千九百二年)
九十四萬八千七百八十八法(千九百三年)
百二十三萬五千三百十九法(千九百四年)

資本家の財產を保護するを以て政府唯一なる職務也とせば、是等の費用も過大なりとはいふべからざらん歟、されど思へ、多額の費用を費して軍隊を維持するは其同胞を殺戮せしめんが爲めなるべきかと、咄

○露領ジョージアの民主政府

三月二十九日露都發アヴア電報に曰く

△コーカサス地方の形勢は頗る危殆となれり、反抗運動は漸く猖獗を加へ就中ジョージャに於ては反亂一般に蔓延し、人民は一切露政の官憲を無視し假民主政府を宣告せり、而して同地方軍隊中反民に對し進擊することを肯ぜざるものある爲め、政府は今日まで右反亂を鎭定すること能はず

見よ露國の官憲は無視せられて假民主政府は宣言せられたり、見よ軍隊は政府の命を奉せず、其同胞を進擊するを拒めり、眞に痛快なる革命の進行に非ずや

○百二十一歲の社會主義者

米國ミソリー州のスタッズバートに住へる、ホリアムキングスレーと云ふ社會主義者は、本年百廿一歲にて實に同主義者の最年長者なり、氏は千七百八十三年に愛蘭に生れ幼にして父母を失ひたるより十三歲より海上生活を初めたるがトラファルガルの海戰にもクリミヤ戰爭にも加はり、後ち米國に來りて南北戰爭にも加はり、身には幾多の負傷を受けたるが今になほ壯健として居れりと云ふ

○康有爲の消息

清國亡命の志士康有爲は二月十一日香港よりの便船にて米國シヤトルに着し同地在留支那人に向て熱心に革命主義を鼓吹しつゝありしが、夫より紐育華盛頓に抵り更に大西洋を越えて英國に渡る筈なりと

●雜誌品隲

―新小說と文藝倶樂部―

▲文藝倶樂部と新小說は、互に文壇の一方に旗幟を飜して、特異の內容を以て、それぞれ異つた讀者によつて、其運命を開拓して居る。

▲文藝倶樂部は故博文館主――尤も乙羽も生きて居た時分――の計畫になつたので、全く大向ふの讀者を標準に編輯した、十年來の古雜誌である、則ち博文館主義によつてなされたものである。三宅青軒、江見水蔭、などは此處に根據をかまへて一家をなし、先生々々と云はれる事になつたのである。

▲讀者が卷頭にある口繪寫眞の美人を構覺し、青軒を品し、水蔭を評し、柳浪を論ずるのは、即ち此の木の末である。此雜誌の生命は半面に於て、博文館主義の反影であると共に、半面は武田櫻桃と云ふ人の面影である。櫻桃と云ふと馬鹿正直な直言の讀者などは、ヂヤア櫻桃とはどんな人かナンて云ふのだろうが、吾輩は誰何に只一言、野暮な云ふな！とむくるのみである。

▲然り、櫻桃樣(おとさま)は常に陰になつて、居るけれど、文藝倶樂部にとつては尤も重大な人物である、此隱勢力の存在を知つて、それから近頃の大町桂月の時文を讀んで見給へ、市街鐵道を延長して、九段より富士見町を經て、神樂坂に至り、四ツ谷に合して、新宿に通はしむべし、など、論ぶして居る。編輯に石橋思案と云ふ人がやつて居る。

▲新小說は俠氣ありと聞く春陽堂から出版されて、文學雜誌として獨立の地步を固めた、近頃はどうしたのか早稻田派が獨占の姿である。編輯は隱健の聞えある後藤宙外氏に依つて、なされて居る。

▲此雜誌の本欄に現はれる小說には、たとへ下らぬ作にしても、作者に何か若々しい希望と、新しい理想が、燃えて、多少の煩悶と苦心の跡が見える。

▲鏡花は「外科室」を限りとして、文藝倶樂部を去つて、獨特の筆を新小說で磨いた、去年初めて「白羽の矢」を文藝に出したのが、かれこれ十年目にもなる、靜雨は何か描寫する度に、何等か研究的の態度を示して居る。新小說はとにかく、新進作家の好い舞臺であつた。

▲新小說が常に吾輩を喜ばしむるのは其小說欄でない、それは寧ろ雜錄や海外消息や、社會欄に現はれる、極めて趣味ある清新な記事にあるのである。對島(?)は川の優婉な宗教的問題、鏡花の清新な漫筆にある。

▲海外思潮の消息は、中島孤島が主として、紹介の任に當つて居る、殊に吾輩は一昨年から昨年へかけて此欄の記事が我文壇に貢献せる功果を忘れる事は出來ないのである。

▲僕は新小說をほめた、けれども毎號掲載される小說は、毎に失望を以て讀了するのみである。吾輩は、文藝倶樂部が、よく、床屋の職人や、下宿屋の女將にまでも、讀書の趣味を養成し得た、功績を明治文學史のページから脫し得ないのである。(瞎の男人)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

中學卒業生を戒む

洒海逸民

今や諸兄が中學を卒業して其進退を決せんとするの時、私立諸大學が頻に客を招くに努めつゝある此時、吾人は諸兄が將來に向て聊か警告する所なき能はざる也。青春の意氣正に燃ゆる諸兄の時代は、自信自恃の最も旺なる時代なり、御抱車の緑綬士も善し、金モールに細い劍も善し、何々大臣閣位勲何等も善し、何博士も善し、何新聞記者も善し、何文學雜誌に妙なる名の出るのも善し、唯吾が學成らざれば死すとも歸らざるのみ、角帽に何大學生と稱人に見はるゝも亦好からずや、卒業すれば月俸幾十圓は甘哉、是れ諸君が希望の凡てなり、斯くて諸君は高等教育の門に入らんとて、術を盡くして父兄を説かん。諸兄の得意思ふべし。

吾人は實に教育の普及を喜ぶ、公私立大學の増設を喜ぶ、然れども如上の希望を以て來る諸兄の上京を歡迎する能はざる也、何となれば諸兄の此希望は遂に全く達し得べきものに非らざれば也、請ふ試みに諸學校卒業生名簿に就て之を問へ、卒業生中相當の職業に從事せるもの果して幾人を見出し能ふや、而も年々歳々其就職者の數の減じ行くの實際を如何にせん、幾十人の卒業生中、職を得るものは僅々以て數ふ中一二の幸運兒のみ、他は遂に成すなし、豈奇怪なる現象ならずとせんや、現時激甚なる生存競爭の摺裏に在つては、何校卒業生何學士の肩書は、以て衣食を滿すの用に足らざるなり、幾多の學者秀才が月給十圓の職口を求むるに容易ならざるの時代也、茲に於てか學生の精氣と忠實とは今や著しく減退して、彼等が腦中に横はる唯一の問題は、卒業後余何にして家を成すべきか、否余何にして吾口を糊すべきかといふにあり、大なる社會問題にあらずや。

此時に當りてか世の所謂識者先覺叫んで曰く、生存競爭は生物進化の原則なり、意氣地なき人物の食を得る能はざる豈怪むに足らんやと、然れども吾人は不幸にして此言を眞實なる士君子の口より聞く能はずして、却て不義不潔なる手段を盡して成功（？）し來れる精力主義者の放言に聞けり、豈天下の滑稽事ならざらんや。

吾人は今假に諸兄が胸中に燃ゆる妄想的願所に教育步を讓りて、諸兄の希望が將來に於て盡く達し得られたりとせん、而して思へ、近世學術の進步、文化の發展は何人も否拒すべからざるの事實なり、文學に美術に技術に工業に殆どあらゆる方面を盡せり、何々博士の增加、何々學校の設立、月に年に其送迎に暇あらざる也、豈聖代にあらずやと、是れ恐らくは多數諸兄が樂天的文明觀也、然れども更に吾人の言に聞け、此文化發展と學術進步の社會に於て、何が故に不動產の異動件數と或種の罪惡とが歲々に增加するのなる乎、換言すればかく貧富の懸隔の益々甚だしきは何の故ぞや、茲に於てか醫學の進步も、建築術の進步も、文學の發達も、精美なる工藝美術の製作品も、國民の多數なる日常の生活に迫はるゝ貧民同胞の社會には何等の用をもなすものにあらずして、安逸爲すなき一部の紳士閥の御用を充たすに過ぎざる也、唯學者美術家、○○、○○○の天職も亦馬鹿げたるものならずや、而も諸兄は若學十年功成つて此種一部貴族と富閥との幇間的業務に從はんことを思ふ、否思はざるとも得ざる也。茲に於て吾人は敢て諸君に告ぐ、諸君何ぞ先づ此社會的病根を求めて、是に向つて一大藥石を投ずるの策を講せざるや。

東京市の水道と電車

（二月…社會主義大會に於ける佐治實然氏演説）

△私は科學上から研究して社會主義者となつたのではなく、實際問題から此に至つたのであります、社會主義といふ名は私には實にうるはしい同情な涙へきました[illegible]人類の中よく[illegible]なるといふことは平生からの考へでありましたが、此名が初めて頭に響いた時は直に成程といふ感じがしました、今日多くの人が此主義を恐しいものとして認められるのは、私に不審でたまらないのです

△競爭論者は[illegible]進步發達は競爭から來るのだと申しますが、私の考へでは却て共同から來てるのだ……其方が多い……と思ふ

△先づ水道の事から申しましよう、此水道が出來まして、上はやんごとなき邊より、下は賤しい者に至る迄皆同一の水を飲む樣になつた、[illegible]

[illegible]

道が引けるのです、個人の仕事は此通り、社會主義反對の仕方より來る損耗は此通り

△市街鐵道の如きは最もよき實例である、此の市内交通機關を市營にしやうといふことは佐久間貞一氏が市會に居た時よりの方針であつたのを、有名なる發假屋亭氏が米國より歸つて市會に入り、此時に其敷設を出願した三井、福澤、雨宮の三派を調停し、市會の方は頭を後に[illegible]…市の爲めといふ口實の下に市議を占め[illegible]ソコで私共の市有說は敗北に歸しました、尤も三錢均一は實に安いもの、之も競爭の少なき爲だが、若し今の三錢を合して市有にしたらドゥであろう

△さて東京市鐵道は百六十餘萬圓である、今假に市が鐵道を敷くとして、百マイルの線を、五百臺の車輛を運轉し、一臺が日に千人を乘せて收入が三十圓にならば、五百臺の總計が一萬五千圓、其を一年に積りて五百餘萬圓、其半分を營業費として利益が二百五十萬圓此内より利子と元金を償却して行くと二十年にて其のものとなる、其時には市の收入はそれだけで餘る、一切の市稅を取らないで猶九十何萬圓殘る、實に鐵道丈でも此通りなのです

△之に反して衞生の如きはドゥであろか、一寸とペストが發生したといふても市は十六七萬圓も費つて、下水工事にも千五百萬圓を費する、總て市に金のかゝる仕事ばかりをして其負擔は市民全體の上にかける、それで金のもうかる事は資本家ばかりがして、利益は彼等少數者の懷へ入る

△而も市費で道路を作つて、それを彼等に貸してやつて、そして二十萬圓やそこら市に出し、道で路を独り占めに[illegible]…て、而して二十萬圓やそこら市に出し、は作つた道路を彼等に貸してやつて…

（此主義…公有の眞理は知れた事ではありませんか）

遙に幸德秋水を思ふ

在廣島 前田三遊

△おもひ廻せば十三年のむかし、明治二十六年七八月の頃、浪華道の角屋、投過者の二階、そこが「自由新聞」の大阪局であつた所で、僕ははじめて小じんまりとした、色の淺黑い、如何にもおとなしな青年と出逢つたが、それは誰あらう、今の幸德秋水であつた。

△其後、廿八年の春、おもひがけなくも又、廣島の地で出逢つて、古行な修理したる、樋の組長な新聞記者に[illegible]しばらく机を並べて、共に國民[illegible]であつた。

△その時には、今一人の僕なこ、西五日合宿して居たが、君は小さな手帳を懷いて來て、今一人の男こ、それな講談の間に入れて、書しあたつて居るので、僕が時々にかい顔なするると「君に居常武骨だれエ」などと言つたともあるのを、今に覺えて居る、其頃の君は、僕の聊ろ意外とする程にも、無頓着な傾向があつた。（中略）

△彼の知る所に依ると、君にはおとなしくて、而して僕よりは通人で、才に口數の利かぬ人であつたから、談義に謂ふ學を專攻して、何か大作でも出す人であらうと思つた。

△廣島で合宿して居た頃、折々君を訪ねて來た、小泉三申君、あの君も僕は覺えて居るが、あの君に似、どうやらレボナポレオンを思ひ立つかの樣に見える風もあつたが、同君はむしろ他の方向に向いて、君は文筆に妙な方向に入つて來た。

△私するに君は、屢々意外の感を僕に與へた人である、君の大體の傾向、君の否、君の難、さては其成功の早いを抔し、すべて僕の陰翳に逆つた事が多い、さらば其君の氣質は、どんなに逆つて居やうか、是れ僕の想像して、想像する能はざる所であつた。

△今日しも、直言が六錢を見ろに及んで、成程と打ちなづいた、君は依然たる昔の君、よし十年老いたるにもせよ、にさびをつけたりしも、君の精神上の變化、如何に著しき事よらしい。さるにても[illegible]

△君にして若し僕の、十三年の昔に見たる君ならしめば、君、願い類なる境遇に、身を置くべき人であつたであらう、しかも君は、求めて逆境に立つた。（中略）

△しかし君は、その恩師兆民先生の爲に、最も善く其精神的系統を承繼いだ人であつて、先生が今日迄も生存して居られたならば、定めし滿足されるとであらうと思ふ。（下略）

西川光二郎著 平民文庫五錢本

英國勞働界の偉人 ジョン・バアンス

▲緒言 ▲勞働者の同情 ▲詩人ロ[illegible]ケアンスと[illegible]

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社

巣鴨監獄を訪ふ

[illegible]

四月四日評議に安部磯雄氏の來訪[illegible]…[illegible]

[illegible]人語（宮の隣村の一節）

昔話に猟師の説話と云ふことがあります、此の話から私に猟[illegible]…詩人の[illegible]な氣になり、[illegible]ことを知りましたが、人間にあつては何[illegible]、宗教家講[illegible]さへさして居て何人も詩人となり、大[illegible]となり[illegible]…に今の社會[illegible]何人にも[illegible]…危險な[illegible]…何人も[illegible]は、其爲めにも多くの者は心ならずも[illegible]…と云ふ評があります、[illegible]…斯く何人も好んで[illegible]…宗教家とか道徳家とか教育家とか云ふ者[illegible]…に一人[illegible]…實に一大詩篇である[illegible]…して居るものに如何に[illegible]…れるまでは決して詩人となりません。

●犯罪問題偶感

犀水生

◎政治上の主義を抱て其所信を吐露することが、犯罪と見做されるのは、今に始つたことではないが、……最も近い例が維新の志士で斬に處せられたものが、後に至つて、贈位の沙汰を蒙つたものも少く無い樣な始末さ、司法官にしろ、行政官にしろ、或る時期を隔て丶顧みても疚しくないだけの、公明なる判斷を下す樣に、熟慮するとは、言ふまでもなく必要だ。

◎所謂確信的犯罪者が、文明の進歩した國に於ては、最も寛大に取扱はれねばならないのは理の當然である、それが兇器を以てどうとかしたとか、兇徒を嘯り集めて何とかしたと云ふのなら格別、正々堂々と言論から議論を以て所信を發表すると云ふことは、一種の愛民心がなくては出來ないことで、これは國家たるもの丶惜敬を以て傾聽すべきものであらう。

◎さて又た一般の廣い意味に於ける犯罪も、眞面目に考へると、實は變なものさ、官吏でも、政黨でも、商賣人でも、地主でも、工場主でも、僧侶でも、慈善家でも皆な智慧を絞つて、他人の懷中をねらつて居る、他人の勞力を偸まふと謀つて居る、是が當世の實狀ではないか「人を見たら泥棒と思へ」と云ふ古い教訓は、今も猶ほ穿ち得たる眞理ぢやないか、果して然らば、監獄の囚人のみが犯罪人ではあるまい、犯罪人と云ふ言葉ほど無意味な言葉は少ない。

◎從來は僅々犯罪豫防策の一として感化事業に從事したことがあつたが、やがて悟り得たところは即ち是れであつた。「豺狼路に當る焉んぞ狐狸を問はん」で、所謂小なる犯罪者を減少しやうとするのは、即ち大なる犯罪者を保護する樣なものだ、小なる私盗を減少せんとするのは大なる公盗の贓品を安全ならしむるに過ぎない。馬鹿な話だ。

◎何新聞であつたかに揭載せられた久保田監獄局長の話の一節に

「五六年前迄は、國分謀殺故殺等の犯罪が多くありましたが、近年は人智の進むだせいか、斯の如き犯罪は甚だ少くなりまして竊盜や詐欺、脅喝杯の財產に關する犯罪の者が多くなりまして殆んど全數の七八分か占むる樣になりました、是れ全く社會的組織の益不完全になれると、それが救濟事業の完備せざる爲めでありまして」云々

と云ふことがあつた。其「社會的組織の不完全」とは、即ち經濟制度の不完全にして貧富の懸隔の益 甚しきことを云つたのであらう。然るにそれが單に救濟事業とか云ふ樣な些末な枝葉な手段で救治することが出來やうと思ふのは餘り皮相の見解であらう。

◎鎌田榮吉氏の歐米漫遊雜記の中に、

「英國の犯罪の三分一は倫敦に於て行はれ、其過半は市の東端なる貧民窟にあり」

と云ふ一節があつた、然り之は實に英國のみではない。何處の國でも貧民窟は實に犯罪の巢窟である。

◎貧民の發生には種々の原因があるが、其主なるものは經濟制度の不完全に歸せざるを得ない、文明の進歩と共に貧民の窮乏益 甚しきを加へるのは寒心すべき現象である。社會の組織に一大病根が在るのは掩ふべからざることである。其病根を救治しなくては、眞正に犯罪問題の大部分を解釋することは出來ない。

◎新しい統計が座右にないから、少し古いが、明治二十三年から三十二年まで十年間の、平均一年間に於ける犯罪數を犯罪種別にしたものを拔萃して見ると、

強盜	一、〇一〇	放火	五三四
持兇器竊盜	八四	謀殺	二九五
竊盜	六五、五五七	故殺	三三四
詐欺取財	一七、四八三	毆打致死及創傷	二五七
貨幣僞造	二五五	毆打創傷（輕罪）	七、〇二四
手形僞造	七五		
官印官文書僞造	四四二	強姦	四七
私印私書僞造	二、〇八七		
賭博	四六、三二一		

右の通りで、其上段は明に金錢に關する犯罪で、下段の内でも謀故殺や毆打死傷の中には金錢に原因したものが少くあるまい。して見ると犯罪問題は一面金錢問題である。僕は此點からしても、終局の理想として社會主義の「金の要らない黃金國」の實現を希望して已まないものである

◎犯罪豫防策として不良少年感化事業てふものが、大分世間から注意されて來たが、元來不良少年の發生するのは、種々原因はあるが、其主要なるものは、貧民窟の樣な惡風の中に育つのが一、不良の家庭の中に育つのが二、惡徒に誘惑せらる丶のが三、別に先天的に病的に犯罪者たるものがあるけれども是は寧ろ少數である。それであるから、感化事業も固より必要ではあるが、それよりも先づ緊要なのが、（一）貧民窟問題、貧兒教育問題（二）婦人教育問題、（三）惡徒取締問題、警察問題、（四）犯罪傾向ある病的少年を收容すべき病院の一種の設立即ち是である、感化教育に就てはまだ〳〵眞面目な研究が必要である。

◎監獄問題にしてもそうである、文明の進歩と共に監獄の建物が立派になるなんどは、餘り難有くない現象だ、眞に文明が進歩するならばこんな建物は無用に歸すべき筈である。今の政府が犯罪問題に費す思慮と金錢とを、失業者問題や、貧民問題に用ひたならば其效果は如何に著大であるであらう。更に進んで總ての根本問題たる社會主義の精神を學んだならば、如何に多く國を利し民を益するとであらう。

●待つ思

樋口配天

待ちに　待ちたる　春は來ぬ
軒端の　梅に　うぐひすは
時な　たがへず　來鳴けども
我が　待つ人は　まだ見えず
待ちに　待ちたる　春は去ぬ
ひとり　さびしく　立つ軒に
雙燕　來りて　巢ごもれど
我が　待つ人は　まだ見えず

●勞働に生きよ

小野有香

（一）

聖者叫びしその昔の　御宣は今もひゞくなり、
『悔い改めよ罪の人　神の天國は近づけり』。
嗚呼がましい、飲罪の人　世の文明を誇らすと、
邪淫、虐殺、飢餓、夭死　僞善に滿る被布の色。
人、此世をば謳はんに　せめては『富の壓制』な、
これ文明の標章ぞと　弱者に誇る罪の人。
資本、武器とは何時の世の　驕れる者の旗幟ぞ。
知らずや「資本は盜奪の　結果』とこそは叫べるを。
盜める富や、或は又　そを受け繼し人の子が、
裸形に生れし身を忘れ　笑止や裸形の子を嗤ふ。

（二）

「富」てふ假りの飾衣着て　[illegible]陰險を事とせる、
富豪と呼べる病者が　驕れる毒言を聽けや人、
「汝「手と身」の貧人よ　なんぢ「富」なき人非人、
心して聽け、汝等は　世に生存の價値あらず。
去つて冥土へ疾く歸れ　さらずば軛に甘んぜよ、
我は黃金の山有てり　黃金ぞ權勢の源泉なる。
「富」だにあらば現世に　望みて叶はぬ物やある、
「快樂」「虛名」は眼を擧て　我を仰ぐに何たらずや。
滿ちて缺くるは代々の月　何、我が富をそれぞとか
そは過てり、我が榮輝　衰ふ時のあるべしや。
見よ、我れ働かで朝夕を　美姬と美食に耽れるに、
「利得」「地代」の名によりて　日々に資金の庫に滿つ。

（三）

我が姬は今年二十一　花も羞らふ風姿にて、
心ばへさへ優しうて　教育も受けし少女なり。
我は我姬を地位高く　世に盈れたる富豪に、
嫁がしむべく思ふなり　人に實意の情なくも。
あゝ我過てり、かゝれとて　教育たのみし誤ぞさよ、
我姬は今や戀といふ　不義の病に襲はれぬ。
我姬賢しげに說きけらく　「父な怒りそ世の戀は
神の賜びてし恩惠にて　人はこれより光あり。
父な咎めそ我が戀は　「富」こそなけれ品位ある
人の誠情に絆されて、　幸と和樂に惱るゝ」。
縺きにし時の悔しさと　その露情はいかなりし、
永の年月手にかけて　花と愛ぐしみ育てし子。

（四）

自由戀愛、名は美なり　さはれ卑しき不義の道、
況してや富も地位もなく　品位ありとも何かせん。
我は我姬の親なれば　不孝の罪な浴せかけ、
否む姬な嘲やかし　富者に遣らんわが權利。
この世快樂の源泉は　黃金白銀、「富」なれば、
財產有たぬは能あるも　我姬の幸は得られじよ。
されば我姬の墜落きて　藻脫の殼の己なば賜り、
富者に遣りて我ひとり　快樂、虛名に耽らんに。
我等は己のが思ふまゝ　私慾榮華に誇らなん、
世に「富」有たぬ汝等は　「死」か「屈從」か、何れな擇ぶ。

（未完）

●大阪平民社設置

▲大阪平民社　は三月二十日を以て大阪市北區中の島宗是町（田簑橋南詰）に設置せられたり
▲大阪平民社　は東京平民社と同じく『直言』『平民文庫』其他社會主義關係書類の卸小賣を爲す
▲大阪平民社　は毎月二回（一日及十五日）夜社會主義研究會を開く
▲大阪同志會　は爾後大阪平民社に合併するものとす

主任者　森近運平

●普通選擧請願用紙配布

▲今年[illegible]

[illegible]

平民社内　齋藤兼次郎

○平民新聞（自五十四號至六十四號）賣捌

平民新聞は舊に第一號より五十二號迄を纏めて合本と爲したりしが、其後の分若し御入用の方あらば郵券三十錢（成るべく五厘切手にて）御送りあれ、直ちに取纏め發送すべし

名士肖像　平民社繪端書

マルクス（近世社會主義の祖）
エンゲルス（近世社會主義の祖）
ラサール（獨逸社會民主黨創設者）
ベーベル（獨逸社會民主黨首領）
トルストイ（露國非戰主義の老傑）
クロポトキン（無政府黨首領）

一組六枚定價十錢
郵稅五組まで二錢

名士肖像　平民社繪端書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●菜食主義について（下）

枯川生

平民社の社會主義研究會にも毎度肉食問題が持ちあがつた。『社會主義の共同生活は人間の社會にのみ行はんと欲するもの乎』『人間と動物との境界線は何處に引く乎』『文明人と野蠻人との差は、野蠻人と類人猿との差よりも大にして、類人猿と人間との差は類人猿と普通の猿との差よりも小だと云ふでは無い乎』などいふ質問も出た、更に進んでは『よし肉食を廢した所で、植物も矢張り生物では無い乎、最近の學說に依れば礦物も亦生きて居ると云ふでは無い乎、然らば人間は結局何を食物とすべきである乎』と云ふに至つた、當時予は只『我々の同情の進むに連れて、漸次に之を高等動物より下級動物に及ぼし、更に之を植物に及ぼせば善いでは無い乎』と云ふ風に答へて置いたが、予の心の底に於ては、更に之を植物に及ぼし、更に之を礦物に及ぼした末はドゥなる乎と云ふ疑問が猶存して居たそこまで疑問を起して、それに解決を附けて置かねば、此の宇宙の大調和の希望に瑕が付く樣な心地がして、どうも十分に滿足する事が出來なんだ。

其後、幸德君が神田の古本屋で、菜食協會から發行した小冊子を見つけて來たので、それも三四冊買つて置いたし、英國の雜誌『新時代』に菜食協會の大會の事が書いてあつたので、それを摘譯して『平民新聞』に載せた事もあつた。そこで此の菜食協會と云ふのは、今より五十餘年前、始めて歐洲に設立せられて、會員は菜食を實行しながら、機關雜誌を發行し、小冊子を出版して、熱心に傳道に勉めて居る。

此の菜食協會の主義とする所は、肉食を廢して現今の殘忍なる食物制度を一變し、人類將來の理想鄕に向つて一步を進めたいと云ふのである。然しながら此協會の主張する所は、決して單純なる感情のみではなく、人道の上より、美術の上より、衛生々理の方面より、社交經濟の方面より、種々に科學的研究を遂げて、而して後菜食の當然自然を論證して居のである。今日普通の議論としては、人は肉食に依らざれば、十分の健康、十分の精力が得られぬ樣に云はれて居るが、菜食主義者の說に依れば、人は菜食に依つて始めて眞に身心の健康を得ると云ふ。又、齒の構造から見ても、消化作用の難易から見ても、人は決して肉食に適じて居らぬ、現に人間に次ぐ所の最高等動物たる猿類は肉食をして居らぬでは無い乎、など丶說いて居る。又更に進んでは、人間の情慾の徒らに猛烈にして醜惡を極めて居るのは、多くは肉食の結果だと說いて居る。

然るに、菜食協會は必ずしも一切動物性の食物を廢するとは云はぬ。卵と牛乳とは許す事になつて居る。そこで或反對論者は之を嘲笑して曰く『卵を食ふのと鷄を食ふのと何が違ふ、牛乳を飮むのと牛肉を食ふのと何が違ふ、之を分析して見れば、化學的元素は同一では無い乎』と。菜食主義者は之に答へて曰く、『我々は化學を語るのではなくて道德を說くのである、卵と牛との間には道德的價値の差がある、足下にして若し其差を認めぬならば、足下は何故に人肉を食ふ事を忌むか、牛肉も人肉も、之を分析して見れば化學的元素は同一では無い乎』

此答は『植物も亦生物では無い乎』と云ふ問題にも適用する事が出來る。菜食主義者は必ずしも菜食を以て究極の理想とはして居らぬ。只理想に向つて一步を進めると云つて居る。理想の究極に到達する明かな道が發見せられる迄は、一步も進むことを肯せぬと云ふのは、道理の無い話である。一步と云ふ點から考へれば、獸肉を廢して魚肉のみを用ゐるも亦多少の進步である。

此に至つて予の考へは稍定まつた。宇宙の大調和の希望など丶云つて、そんな大それた事が我々の思慮分別で分るものでは無い。『土ヨ食て蟲ヨ食て跡ア何ヨ食オカ』と雲雀が囀つて居ると云ふ話があるが、そんな先の事まで取越苦勢をせずに、それは謂はゆる神の攝理（と云ふが厭なら、進步向上せる將來の人間の智德の計ひ）に任せて置けば善い。そうして一步でも進み得るだけ進んで行けば善いでは無い乎。現に我々は梅の水枝や松の若芽をムザ／＼と切るに忍びぬ心地がする。又六角整然と結晶せる水晶を碎くに忍びぬ心地がする。然しながら大根や、蕪や、芋や、栗や、米や、麥や、それを食ふには未だ少しも忍びぬと云ふ感じが無い。そこで其の忍びぬ事だけ止めるとすれば、それが既に一段の進步では無いか

斯く考へが定まると同時に、一方には肉食に對して少しづ丶厭な感じが增し、一方には菜食に對して多少迷信的の感情が生じて來た。元來予は田舍の山の中で貧乏に育つた者であるので、菜食の趣味は非常に多く養はれて居た。大根も好、芋も好、豆の如きは最も好である。それに考へが斯樣に變る間には、豆の含有する蛋白質は牛肉のそれに劣らぬと云ふ高木兼寬君の說に注意したり、フランクリンが菜食をした結果、非常に頭腦の明晰を覺えたと云ふ話を思ひだしたりして、いよ／＼菜食的信仰が增して來た、例へばホウレン草の、サモ柔かそうなシタシ物でも出來て居れば、其の青い葉と其の赤い莖との色の配合などが、何とも云はれず床しく感じられて、非常に嬉しくそれを食ふと云ふ樣になつた。迷信と云つても、林檎を食へば頰の色が林檎の樣になると云ふ程では少しおかしくなるが、『肉を食ふ者は肉慾的になる』と云ふ風に說かれて見ると、成程と云ふ氣にもなる。カーペンター氏の如きは實に左の如く云つて居る。

『人間中樞の精力を養はんが爲には、果實、種子等より成れる食物を以て最も適當と爲す。肉食は一時神經的元氣を起すの効はあるが、覺畢それは局部を興奮させるので、中樞の統制力を失はせる事になる。又多く肉食する者は病氣に罹り易い。それも體の病氣ばかりで無く、其心が種々の情慾と悲哀とに陷り易い』『種子食物（例へば果實、穀粒、根塊、豆、卵、乳の如き）は、其の緊縮したる形の中に多量なる生命の原質を含んで居て、而も之を取るが爲に生物に何等の害を與へぬ。彼の蕪の如きすら、其根を殺がれて煮らる丶時に、我々には聞えぬ苦悶の叫びを發して居るかも知れぬが、彼の苺の如きは、願はくば此の實を取れと云ふが如く、其の美しき赤き玉を捧げて居るでは無い乎』

余は此文字の中、どこまでが科學的でどこからが詩的であるかを判定し得ぬ。然し何にせよ余は甚だ多く此文字に依つて心を動かすのである。

以上は只余一人の心の變遷であるが、明治の初年に生れたる余の心の歷史と、明治社會の思想の歷史とは、大抵同一の步調を取つて居るでは無いかと思ふ。現に平民社に遊びに來る少年の中に、二人の菜食實行家のあるが如きは、偶然かも知れぬが、亦思想の潮流を見るに足るべき標木かとも思はれる。（完）

ひどく御無沙汰「菜食主義」は吾兄の思想變遷史として面白く讀んだ、吾兄が「盛んに豚を食ふべし」と唱道されたのは僕は昨日のやうに思はれるのに、今日はVegetarianになられたかと驚く……僕は兄がキリスト敎の見地から社會主義を唱へる日が到りはしまいかと今思てゐる　四月五日　加藤米司

堺利彦樣

●平民社より

枯川生

▲橫濱の荒畑君が宿つて居る、靜岡の深尾、原子、二君も來て居る、平民社は此頃非常に賑かです。そして裏庭には諸君の行商用の赤車が二つ並んで立つて居る

▲平民社の裏庭は極めて狹いが、それでも水仙が芽を吹き、沈丁花が香を放ち、柳の糸が大分綠になつて居る。椽側には柴田君の持つて來て吳れた三色菫の小鉢が三つ並んでゐる。

▲一つ忘れて居た事がある。松岡さんの大事の小犬マル坊は、永の間の病氣であつたが、養生叶はず先日とう／＼死んでしまつた。

▲社會劇會では、愈々本月中旬より五日間、四谷橘座に於て第一興行を試むる由。外題は『金色夜叉』七幕。

▲『眞人の自白』は約の如く去一日より每日新聞に載つて居る。木下君苦心の跡が見える樣だ。其外木下君は殆んど絕えず同紙上に何か面白い讀物を載せて居る。そして『直言』には每號必ず多大の援助を與へて居る。我等は君の精力の强さに驚かざるを得ぬ。

▲三日の夜、同勢打連れ演說會から歸つて來ると、下の十疊の間にはチャンとモウ寢床が四つ五つ敷きならべてある。寢床はイツでも銘々に敷く事になつて居るのに、今夜のお留守番は特別に氣を利かして吳たものだと思ひながら奧の四疊半に入ると、延岡、松岡の二君は眠そうな顏もせずにニコ／＼として居る。それから皆で演說會の騷ぎの話などして一時間ばかりも過した後、『ヤアもう十二時だ、寢よう／＼』と男連は隣の十疊の方に引さがる、婦人連は四疊半を形づけて床を敷く。其中、眞先に寢た荒畑君が妙な聲をして『僕の寢床の中からコンナ物が出た』と云ひながら箒を一本投げだした。『アラそれはサツキ掃除をしたまゝそこに忘れたのですよ』と松岡さんは事もなげに云つたが、延岡さんが笑ひたふれてキュッ／＼と云つて居るのが、何だか意味ありげに思はれて、皆々少々警戒して居る處に『やあ僕の處には大變な物がはいつて居る』と、今度は原子君が金盥を一つ投げだした。いよ／＼イタヅラと知れたので一同大笑になつて、『それでは僕の處にも何かはいつて居ろだらう』と蒲團をめくつて見たがそこには何んにも見えなんだ。『ひどい事をなさる御婦人達だ』と云ひながら、僕は一番おくれて筒袖の子マキを着ようとすると、何だか妙に引か丶つて兩方とも手が出ぬ。をかしいなと思ひながら善く見ると、ひどいぢやないか、兩方とも袖口がチャンと縫ひつぶしてあるのだもの。是に一同又大笑ひに笑ひくづれた。『隨分手數の掛つたイタヅラだ』と獨語く氣をつけると、まだ／＼念の入つた事がしてあるのだ。即ち僕の子マキの後の方が、丁度尻を端折つた樣に、帽兵衞もどきに縫ひつけてある。餘りの事だから、男連は近日大會議を開いて、婦人連に對し敵打の策を議する筈です。讀者諸君の中、若し妙案あらば御授けを乞ふ。

▲安部磯雄君はいよ／＼四日橫濱出發の汽船に乘込んで米國へ赴いた。ベースボールの競技の外に、何かミヤゲがあるだらうと思ふ。

▲今日は止んで居るが、此三四日春雨がシヨム／＼と善く降つた。予は一日、例の角筈の十二社で、池のほとりの松林の、綠の色を染めて居る、糸の如き此春雨を眺めつ丶、故人と共に十有餘年の往時を語つた。（四日夜記）

（前號の本欄中、廿七日の項に『編輯』とあるは『編物』の誤。前々號の中、矢野翁に關する項に、『口に』とあるは『以て』の誤）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲勞働者觀櫻會の記　「下谷警察の暴動」「吾黨同志の引致」

△一週間も二週間も前から警探君はシツコク遣つて來る、警察署へは呼びつけられる、聞けば探偵君が齋藤君の所へも、木下君の所へも、加納君の所へも、直言發行所までも頻りに尋ねて行つたとのこと、警視廳の狼狽も一方ならぬ樣子であつたが、さて又例の迫害に遭ふのは困つたものだと、心には思ふても仕方が無い、マヽよ遣れるだけ遣つてのける迄のものと、覺悟を定めて當日の來るを待つた△二三日來降り續けた雨が前夜にも尚は止まず、二日(當日)の朝も天氣は曇りて今にも降り出しそうであつた、されど降りさへせねばドウしても行かねばならぬと衆議一決、午前九時といふに吾等の一と組は平民社を發した、觀櫻會は正午からなのだが、吾等は其前に一活動を試みんとて斯くは早刻より出發したのである、△「社會主義萬歲」或は「社會主義傳道隊」等の六字を記したる赤旗を押立て、例の大太鼓を叩いて社會主義の歌に和し、先づ銀座街頭に出でゝ此の大道を練り行き、京橋、日本橋、今川橋を過ぎ、左折して神田區に入り、外神田に至りて中食を或蕎麥屋に濟ませた、此時までに道中「社會主義の檄」及び「演說會の廣告」を頒布せるもの數千枚△蕎麥屋に入りし時尾行の探偵三人ありしを發見した、此處にて一同はチリ〳〵バラ〳〵に分れ、各々裏路を辿りて上野に向ふた△予が迂回して竹の臺の背後に至りし時、先づ山口君に會し、ヤアーと挨拶した儘に目クバセして行く、すると山田君が博物館の陰から麾く、岡君が來る、西村伊作君が可愛らしい少年を連れて來る、向ふの方に一とカタマリ、後の方にも二群三群、元より期せずして會せしものとは言へ、何れを見ても見覺えある人々であつた△一人の同志がドンだぞと叫ぶや、ノレツと掛聲して倶銘々に赤旗をカザして「社會黨萬歲」「社會主義萬歲」など叫びながら竹の臺へと走り出た、此時二人の警部は何れよりか現はれ出て、數十名の巡查探偵を指揮して吾等を捕へ、モミ合ひヘシ合ひながら警官屯所に引致せり△警察官の所置は實に暴動を逞ふせるもので、突くやら、擲ぐるやら、罵るやらマルで犬か豚でも窘める樣な仕方であつた、されば同志の憤激一方ならず、此屯所にても亦警官と吾同志とは入りみだれて大騷擾を起し、叫喚、叱咤、ドタドタ、バタバタ……、外には何事やらんと走せ集れる群衆山の如く、かくて吾等は一人々々巡查に引連れられて此群衆の中を下谷警察署まで送られた△其下谷警察まで引致されたのは同志の中三十一名であつた、中に二人の婦人が居たとは特筆して置く、而して又一時間餘を經て其多くは退出を許され、結局、齋藤、加納、岡、山田、山口、松崎の諸氏及び予の八人のみ夕刻までの拘禁が宣告された△六時頃拘禁を宥されて平民社に歸へつた、社には同志の多數が待つて居て、「萬歲!」の叫びと拍手とを以て吾等を迎へて呉れる、而して相變らず狂暴なる警察の所置には皆々悲憤の腕を扼した、社會主義の歌を歌ふて散じたのは八時半であつた、此日の餘憤は遂に翌日の演說會の大紛擾となる、天の澎湃として雨降らずや、其所に大洪水が押出すのは必然の理では無いか(石川生)

▲社會主義大演說會

四月三日午後六時半神田青年會館に於て開かれた、當夜は雨であつたが時刻の迫るに從つて聽衆が多い、拉に遺憾であつたのはその時刻前まで金港堂の少年少女の會合があつて下足準備が全然出來て居なかつた爲下足場は大混雜、これがために歸つたものが多かつた、それでも五六百は確かに見受けた、巡查の配置は例により甚だ嚴重、時が來たので先づ演壇に顯はれたのは松崎君であつた、慈善事業に就て例の皮肉的譏りで大に罵倒して最後に曰く「是等の愛國的山師的乞食的所謂慈善家を一室に集めて之を……」然り感化するのが最も捷徑である」次に山田君が登壇した、黑紋付の筒袖姿、風采が上つた、之が先づ衆目を驚かしたらう、極東問題の眞相に就て述べた、極東問題の中心は老淸と弱韓とで、各國經濟上の利害に基くのである、かの東學黨の蜂起の後……三浦梧樓君が云々と云ふや臨監警部は突然中止!を命じた、次に顯はれたのは驍將木下尚江君その人であつた、君はその筒袖姿を山田君に讓つたのか黑の洋服姿で見るからが英姿颯爽たるものであつた、其論調大意は別に記載せらるゝ事と信ずるが言々實に肺腑より出で、鬼氣人を襲ふの感あらしめ、陶然として一時間半程も聽衆を醉はしめた、聽衆の喝采と謳歌とは君に對して著しく顯はれた、三分間の休息後、佐治實然君が登壇、社會主義の如何に多數人類に幸福と快樂とを與へるかの一例として東京市の水道と電車の營業に就て、諄々として說明せられた、木下君の大雄辯と佐治君の通俗的說明とは兩者相俟て非常に有効であつたと思ふ次に堺君が出て「今夜は更科警部の特別の寬典(?)に依つて無事に茲迄來たが、時間が大分遲いから今夜は之で散會します」と述べた、散會前に一言諸君に報告すべきことありとて登壇したのは石川君で「昨日の勞働者觀櫻會は例によりて讒謗の如く解散を命ぜられた、が茲に甚だ憤慨に堪へないのは我同志の山口義三君が何の理由もなく一巡查のために撲たれたことで、而して其無禮を憤慨して下谷署で我等一同が其無法を詰つたのに對して、彼等は山口君を發狂者として別房に留置しなければ危險だと暴言を逞しうした、彼等は全く人權を無視したのである云々」と述ぶるや、また更科警部の中止!!! サア聽衆は激した、社會黨萬歲、暴壓は遂に革命!と呼ぶもの、壇上に踊り出て憤慨を述ぶるもの、騷然、雜然、聽衆の動搖めき、警察官の防戰、入亂れて恰も怒濤の相擊破するが如く、其間會場の一隅より大太鼓を打ち出す者あり、一同は之に和して社會主義の歌を歌ひ「社會黨萬歲」「我が黨旣に勝てり」「勝利の子は靜肅なれ」「社會黨萬歲」轟然たる叫喊聲裡に終に散會した、昨日來堪らえ切れなかつた鬱憤も之れで淸々した(一聽衆)

▲宇都宮傳道

▲汽車中の傳道　去る卅日、昨冬栃木監獄に(谷中買收案の出た時)厄介になつた同志を訪ひ、共に社會主義の傳道をなすべく宇都宮へ向つた、車中撒と二日の演說のチラシと平民文庫とを用意して王子邊から頻りに蒔た、各停車場へも撒いた、古新聞を呉れた、夜九時宮へ着く迄にジヨンバーンス外十一册計り賣りつけた、二日歸途には地方の學校を卒業して新に上京する男女の學生が非常に多い、我が黨も前年初めて上京の時を追懷して感慨なきを得なかつた、彼等は眞面目に撒を讀んで居る、一人の女學生に火の柱を賣りつけた、

▲師範學校の傳道　卅一日に宮の市中に撒をマきながら縣議士、官吏、教員などを訪問して社會主義の書類を研究すべしと話したが、多くは玄關拂ひであつた、二荒山の公園で師範の學生に說き初めたら、彼等曰く學校に來りて說明し吳れよと乃ち伴はれて舍監に紹介さる、來由を話せしに彼も亦贊成し、雜誌縱覽所に多く生徒を招き集めて余を紹介しくれた、そこで色色と社會主義や平民文庫に付いて說明したが中々判らぬと見へて誰も口を開かぬ、出過ぎては居ると思ふたが教育の話なし樋口氏の新教育學の評論などなしたら漸く話す生徒も出來て買手が出來て十二三册賣つた

▲社會主義談話會　卅一日夜旭町藤屋に開會、來會者には牧師もある、官吏もある、銀行員もある、店の手代もある、警吏もある、先づ昨冬鑛毒運動の時の珍談が初まり、次に余は「社會主義とは何ぞや」に就て各人の意見を聞いた、社會主義者の社會觀は餘りに社會現象を研究するに經濟上の影響を重じ過ぎはせぬかとの說も出た、來會者の一人に商人で非常に社會主義に熱心な人がナポレヲン三世の即位とルイブランの失敗に付いて佛國社會主義の消長を詳しく述べたには一同驚いた、案外な所に熱心家があるものである、彼は目下夜間專修學校に通學して經濟學を專攻して居るそうだ、余は後に普通選擧の急務を說き、最後に有賀一木兩博士の之に關する說を評論した、

▲中學校の傳道　一日の朝一里半もある中學校迄テク〳〵歩いて行つて籠川校長に面會を求めたら、上京中の由で講師のみだとの返事、然らば講師でもよいと云ふたら、急に外出して會計ばかりと云ふから、今度は誰でもよいと云ふたので會つてくれた、側に居た入學顧(外出した筈の講師ならん)は御門迄でだと一喝する、そこで余は「新聞を二三枚とり出して閑暇な時に御讀みなさい」と云ひ遣て來た、歸りには雨が降つて弱つた(吉田璣)

△社會主義研究會(大阪平民社)

△四月一日午後七時より開會、生憎風雨の爲め來會者僅に十三名なのは遺憾であつたが、逸見君が立寄つて下さつたのと、五名の新顏が見へたのは大に意を强ふするに足る△先づ高尾君が開會の辭として平民社の歷史から、本社創立の事情と將來の希望とを述べ、次に森近生の「營利心論」の講習に移る、彼は今の經濟社會は資本家企業家の營利心により運轉されつゝあることより論起し、社會主義と社會改良主義とは程度の區別にあらずして種類の區別なりと結論した、次に逸見君が平民社に行くの愉快なることを述べ、これ全く暴力の壓迫なきが爲なりと述べ、進んで社會主義は全社會を全く改革せんとするものなることを說いた△それより來會者の隨意談話に入り、二宮氏及び德川ドクトル等の談話ありて後、蕎麥を取り寄せて食べつゝ「三日に社の前で寫眞を取ること」に一決した、一同大滿悅で歸つたのは十時過ぎであつた、　▲次會は十五日午後七時より開會、來會隨意(赤人)

▲早稻田社會學會例會

去三月二十九日午後二時牛込丸房霞に於て開會、來會者廿餘名、先づ秀湖は立ちて一學究先生、及一道學先生が社會主義に對してなしたる、二箇の批難を各歸駁し社會主義は經濟學に立脚すれども決して唯物論に終らずと論じ、孤劍は社會主義に於けるキリスト教的精神を例の詩的の熱舌に紹介し、滄海は趣味ある縮觀を述べ、松堂は、廣義の社會主義は、唯物論にあらずこれど狹義の社會主義は唯物論なりと斷じ、雪嶺は、非常の勇氣を以て、幼年者の性慾自覺に關する研究調查の結果を發表して、現代の不自然生活を痛罵し、細川享介君は、日露の戰爭より戰爭絕滅期を豫想し、それより新入會員の入會挨拶あり、孤劍滄海秀湖は最後に獨吟をなし高談聲裡に散會。

▲上毛直言讀者會

△日時　四月十六日午前十時
△場所　高崎市賴政公園內植木屋
△會費　拾錢內外、吉田璣出演(日露戰時外交論)

▲小樽區讀者會(北海道)

△日時　四月十六日(第三日曜)
△場所　堺町十番地碧川氏宅
(美和學校下、同校にて問合あれ)
△會費　金三錢

▲社會主義研究會(橫濱曙會)

△日時　每土曜日午後六時より
△會場　末吉村三の四七、高畑巳三郎方
△會費　無し、來會隨意

▲信州小縣郡神川村讀者會

△日時　四月十一日午後七時
△場所　同村四八六、山邊清太郎方
△會費　金三錢、來會隨意

▲社會主義研究會(名古屋)

△日時　四月十二日(水曜)午後六時より
△會場　名古屋舶屋町武內健三方
(春日神社より一町半南日印の提灯あり)
△會費　金三錢

●傳道行商日記(二)

(東京にて)　原子基　深尾韶

▲三月三十一日の朝、予等は惜しき別れを告げて、東海道鈴川驛に同志と袂を分ツた其晚平民社で結んだ夢こそ一生の中で一番心地よいものであツたらうと思ふ
▲上京以來雨ばかりで種々の準備に弱らせられた。併し車も立派に出來上ツたし、此上は幻燈映畫の出來るのを待つばかりとなツた。
▲荒畑君とも相談の結果、予等の取るべき道は、八王子から小佛峠の嶮を越え、甲府を經て信州諏訪に至り天龍川に沿ツて下り、更に木曾川の峽谷を廻ツて長野に行き、直江津に出ることになりました。沿道の同志及び讀者諸君、どうぞ宜しくお願ひ申します。
▲本日までに賣ツた書物の數五册、これを賣初とす。
(四月四日夜稿)
(予等への通信は平民社宛でお出し下されば屆きます)

●今日の會合●

今日(日曜)午後二時より婦人講演會を平民社樓上に開く、會費金五錢、豫定の講演左の如し

△「ならしき」とは何ぞや　堺利彥
△獨身に對する我見解　神川松子
△獨逸軍人の結婚　石川三四郎

▲注意(男子は必ず婦人に同伴せられて御來會あらんことを希望す)

△社會主義研究會は今晚は休みます、此段御斷り申す

●今日の會合●

●新刊紹介

▲家庭雜誌(三の四)　本號には淸山氏の「結婚と生活問題」を揭載せり、英國の一婦人雜誌中の「賢世帶を恐れて、結婚を拒む婦女は果して薄情なりや」てふ一女子の投書を譯出して之に氏の批評を加へたるもの、家庭論として最も溫健なりといふを得べし、(一部六錢、麴町區中六番町十番地由分社發行)

▲新佛教(六の四)　黃洋欄、我觀欄、縱横欄、鳴堂欄、米峰欄、洗泉欄等打揃ふて各欄各記者の特色を現して居る、米峰欄に斷書あり、曰く「天下愚人多し「乃ち教界人物觀」の揭載を中止す」又曰く「新佛教誌上の米峰は評判頗るよろしからず候條、當分の間引籠り謹愼仕るべく候、此段愛讀者及惰讀者諸君に申上げ候也」(一册十錢、駒込片町新佛教徒同志會發行)

▲明義(六の三)　麴町區紀尾井町明義雜誌社
▲鬼馬の友(廿二)　靜岡縣濱松實業徒弟共勵會
▲中央公論(廿の三)　本鄉四片町反省社
▲無盡燈(十の四)　下巢鴨眞宗大學無盡燈社
▲活動の日本(四)　京橋尾張町隆文館
▲國民評論(二)　神田三崎町其社
▲天鼓(二)　神田今川小路北上屋書店
▲文庫(五)　本鄉駒込西片町內外出版協會
▲基督教世界(一一二六)　大阪北區中之島其社
▲新曙光(十の三)　北豐島郡日暮里村北友雜誌社
▲新公論(四)　本鄉四丁目其社
▲獨立評論(三)　豐多摩郡澁谷村其發行所
▲新佛教(六の四)　小石川原町六鷗聲堂
▲勞働(一四)　南品川勞働新聞社
▲新人(六の四)　小石川久堅町其社

●編輯雜事

▲『直言』記者は『直言』の編輯に關して常に讀者諸君の批評と注文とを聞かんと欲す。御遠慮なく御申越あらんことを希望す。
▲投書の餘りに長文なるは編輯上困難を感ずること多し。文章簡潔を尙ぶと古人も云へり。文短くして意長からんことを希望す。
▲今後吾黨の演說會のありたる場合には、聽きに行たる諸君の中にて、批評なり、形容なりを書いて送られんことを希望す。婦士の心得にもなり諸君の樂みにもなる事と思ふ。
▲『社會主義の歌』と『社會主義の檄』とを、幾種も幾種も得たしと思ふ。讀みやすく、分りやすく、短く、而も强く、淸く、面白きものを希望す。殊に婦人向のもの、小兒向のものあるも亦甚だ妙也
▲社會主義的思想を含みたる短篇小說、お伽話の類は記者の最も歡迎せんと欲する所也。然れども記者は只投書家の意に從うて多數讀者に對する責任を忘るべきに非ず。取捨の自由は姑く記者に一任せられんことを希望す。

●運動基金廣告

▲金十四圓(第三回)	東京	元　登美氏
▲金十五錢	福島	渡邊三之介氏
▲金二圓(三月、四月分)	丸屋町	無　名　氏
▲金一圓	淺草	無　名　氏
▲金一圓(第二回)		同　志　會
▲金一圓	江州	河村藤一郎氏
▲金五十錢	高岡	成瀨國守
▲金一圓		某　軍　人
▲金三十錢	長岡	武藤於菟氏
▲金一圓	秋田	伊藤乙松氏

小計金廿一圓九十五錢(三月卅日より四月五日まで)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自然美論

英國ジヨンラボツク先生原著
日本正岡藝陽君譯述
説明圖及參考圖五十餘個挿入
クロース製釘最美本全一冊
定價金八十五錢郵税金十錢

自然美論は自然と人生の感通をば最も明確に理解せしめて自然と共に樂しむ可く極めて趣味多き研究方法を敎へ、文學科學の完全なる調和を示せり、自然美論は先づ美と幸福論とに著筆し自然の愛動物の社交植物の活動花界の歴史山河湖谷の根元儀容爭闘妖術より延ては海岸論となり雨極觀となり終に燦爛たる天象を精叙して星雲の飛動に筆を擱けり、自然美論を通讀せば能く天地萬象に關する科學的智識と美的觀察力とを併せ得可く趣味は豊溢利益は無限讀者驚喜措く能はざるべきなり

發兌元　東京本郷駒込三町生　金色社
大賣捌　東京堂・上田屋・北隆館・東海堂

（毎月一回十五日發行）

スヰートホーム

▲社會主義の婦人は讀まざるべからず

●するーとほーむは我國唯一の良家庭雜誌なり
●するーとほーむは家庭改良の卒先者なり
●するーとほーむは清新なる婦人の好讀物なり

記事
自由戀愛論　石川旭山、母の光　松岡文子、婦人の單位と社會制度　白柳秀湖、紫式部と淸少納言　井口龍城、狂校書　吉田璣、歐米に於ける婦人の社會運動家　山口孤劍、家庭電話　唐辛

●するーとほーむは青年婦人の交際機關なり
●するーとほーむは女子學生の好侶伴なり
●するーとほーむは敎育家も亦必讀の雜誌なり

▲社會主義の青年は讀まざるべからず

一部郵税共金四錢　半年分廿二錢　一年分四十二錢　郵劵代用一割増

發行所　東京本郷區駒込千木町一　鳴潮社

家庭雜誌

●三巻四號　四月二日發行
○簡易生活會
○幼時の住家（詩）
○西洋料理ピクルの話（餘香）
○二葉園藝＝●苺を作れ●園藝と肥料●園藝問答（六題）
○結婚と生活問題（渚山）
○エイプリル・フール（歐洲の奇風俗「四月のいたづら」の話）
○個人改良と社會改造
○誕生日の趣向（渚山）
○北海道の田園生活（白百合）
○病人の見舞方
○雜筆＝●春と人其他

一冊六錢▲六冊三十二錢▲十二冊六十錢
發行所　東京麹町中六番町十　由分社

●書籍取次販賣（▲▲▲郵税無料）
●社會問題解釋法（安部磯雄著）一圓廿錢
●社會主義神髓（幸徳秋水著）三十錢
●廿世紀之怪物 帝國主義（同上）廿五錢
●百年後の社會（平井廣五郎譯）六十錢
●小説 勞働問題（堺枯川譯）卅五錢
●社會主義概評（島田三郎著）三十錢
●社會黨（西川光次郎著）十五錢
●我家の犬猫（同上）八錢
●家庭雜誌合本（第二巻）七十錢
●トルストイ翁 日露戰爭論（平民社譯）八錢

取次所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社
取次所　大阪市中ノ島宗是町田簑橋南詰　大阪平民社

新體詩雜誌

國詩

第二號四月一日發行

編輯擔任　清水橘村

▲「國詩」は新體詩なるのみならず、詩評、俳句、短歌、散文詩の雜誌なり
▲「國詩」は詩人の見るべきもののみならず、讀詩家の必讀すべき標準的雜誌なり
▲「國詩」は「文庫」「新聲」「萬朝」「電報」等あらゆる青年詩人三百名を批評す
▲「國詩」社友には常に原稿料を送りて之を奬勵す
▲「國詩」は岩野泡鳴君以下十九家の作物を得て常に誌上に掲載す
▲「國詩」は清水橘村の獨力經營になる故に當今雜誌の如き美觀なし唯新奇文界唯一
▲「國詩」には堅き主張あり、常に諸雜誌の非藝術的文藝に向つて痛撃を加へつゝあり

定價一冊賣七錢郵税二錢　直接購讀一ヶ年分（金七十錢）申込は社友とす

發行所　東京下谷二〇四　國詩社

平民文庫出版廣告

●社會主義入門　平民社同人編　定價十錢
●消費組合の話　石川旭山著　定價十二錢
●地上理想の國 瑞西　安部磯雄著　定價十五錢
●社會民主黨建設者 ラサール　幸徳秋水著　定價十五錢
●土地國有論　西川光次郎著　定價十錢
●富の壓制　西川光次郎著　定價十錢
●マルクス　西川光次郎著　定價十錢
●經濟進化論　田添鐵二著　定價十五錢
●小説 火の柱　木下尚江著　定價卅五錢
●小説 良人の自白　木下尚江著　定價金卅五錢
（以上總べて郵税を要せず）

五錢本之部　一部價五錢郵税二錢　但二部以上郵税不要
●百年後の新社會　堺枯川抄譯
●理想鄉　堺枯川抄譯
●ジヨン・バーンス　西川光次郎著

發行所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社
取次所　大阪市中ノ島宗是町田簑橋南詰　大阪平民社

社會と主義

ジヨン、モーレー氏著　柴山君譯
定價十錢　郵税二錢

グラツトストン氏を説服して愛蘭自治法案を提出せしめたる平民政治家ジヨン、モーレー氏が冷靜なる頭腦を以て社會發達の根源を觀察して斷案を下したるものなり、現時の民政的大理想を知らんと欲するものは必ず一讀せざるべからず

信仰除賦

小星

葛巻星淵君著（再版印刷中）
定價十八錢　郵税二錢

美文麗句にあらず又巧想妙思にもあらず唯人生の野邊に闇黒と荒寥とを感ずる世の兄弟姉妹に對して一片の光明と慰籍とを供する小星たるなり

發行所　東京神田區猿樂町二十子　中庸堂書店

無盡燈

毎月一回一日發行
◎定價一部金十錢◎半年分五十五錢◎一年分一圓郵税不要

發行所　東京巣鴨眞宗大學内　無盡燈社

抱負主張

所論該博、行論的確を期するは研究欄の抱負也。靈界指導求道の友を期するは修養欄の本領なり。批評森嚴所論犀利奇警は時論欄の主張なり。加ふるに南條博士の梵文妙法蓮華經和譯を載す。かくて學界に貢獻し、靈界の指針となり、思想界の先驅となる。世の宗敎、哲學、科學に感與ある人來りてこゝに友を得よ。

活版印刷

東京[illegible]地
株式會社
國光社
電話新橋二六九三番
特電話八八番

福田英子女史著

妾の半生涯

▲大阪國事犯の女傑景山英子が自叙傳たる第四版印刷中也
▲本書は今や名聲や遂に此小島國内に止まる能はずして、今や海洋千里を越えて歐米讀書界を動さんとす
▲著者の知友獨乙人某は本書を英語に並び獨語に飜譯せんとを需め來る
▲以て本書が如何に世界同胞の衷心を激動せしめつゝあるかを知らん
▲蓋し本書は世界の婦人に對して其覺醒を迫る警鐘なり
▲定價三十五錢郵税六錢
▲著者肖像入裝釘美麗

發賣所　東京神田表神保町　東京堂

痳病せうかち根治神劑

快痳丸

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所へ調製せしめ輕きは一週間如何なる難症にても一ヶ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり

價●三日分十五錢●七日分三十錢●十五日分六十錢●一ヶ月分一圓
東京市中は即刻配達す●全國無料送達す

發賣　東京神田區皆川町一番地　電話本局三千四十番　一志堂藥局

●神經衰弱　遺精早漏陰萎勃起力記臆力衰退手淫の害　速治療法
●陰莖包皮無痛療法
●梅毒●りん病●痔疾
●婦人科●せうかち●子宮病●血の道●月經不順
●地方患者は返信料添へ申込む可し

東京市神田區西今川町三番地　愛生醫院

外科皮膚病梅毒外科的婦人科尿道痳痔外器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際出雲橋　加藤病院　電話新橋一〇三

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺　火木土　自午後三時至六時　小田原海岸　毎月曜午前中

男女生殖器病專門　内科外科
診察無料藥術料任意
涙紅醫院
院長　醫士一瀬鷹一
東京神田連雀町十八　電車萬世橋下

辯護士　卜部喜太郎
東京市麹町區上六番町二番地　電話番町六二六番

▲本紙定價　一部三錢五厘、廿部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、郵税不要
▲廣告料　一行十九字詰三十錢
▲注文　は總べて前金に限る
▲郵劵代用　にて御送金の場合は必ず一割増とし成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人　原眞一郎
印刷人　山田金市郎
發行所　東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地　直行社
發賣所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　電話（本）三二六二
印刷所　東京築地二丁目四十二番地　株式會社國光社　電話新橋特八八、新橋六九三二番